

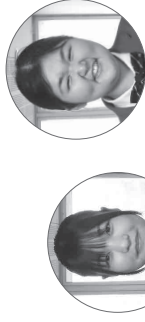
紡がれる支援の大切さ NGOとの連携で植林活動などを体験

本連載では、国際協力に取り組む全国の高校生の活動を紹介します。
国際協力の未来を担うかもしれない高校生たちを取材した。

オイスカ浜松国際高等学校

国際NGOと連携しフィリピンの
研修センターで養蚕業を学ぶ

地域に密着したSDGs活動で
浜松市・中田島砂丘を守る活動も



鈴木 愛子さん



スエナガ グスタボさん



同校の生徒たちは卒業式で、バゴ研修センターで作られた画を使用したコサージュを胸に飾る

ターを訪れた。ネグロス島や近隣の島の農業者育成をする同センターは、ネグロス島の経済を支えるサトウキビ産業の低迷を受け、単一プランテーションに頼らない農業者の育成を目指し設立された。2024年度は、島で盛んな産業である織物の生糸を作るための養蚕業の研修に参加。電動の機械を使わない伝統的な絹糸作りや、絹織物になるまでの工程を見学した。

植林を通じて感じる支援の輪

フィリピン研修では、「子供の森」計画の一環として植林活動も実施された。「子供の森」計画はオイスカの活動の一つで、現地の子どもたちが自分で苗木を植えることで、自然を愛する心や、緑を進める気持ちは育みながら緑化を進めるプロジェクトだ。研修で植える苗木は、同校の生徒たちが集めたベルマークで購入される。

世界でも有数の災害多発国であ

現地研修で視野を広げる

「もっといろいろな世界を知りたいと思います」と笑顔いっぱい語るのは、オイスカ浜松国際高等学校3年生の鈴木愛子さん、長谷部帆夏さん、スエナガグスタボさん。3人は昨年、同校が実施する1週間の海外研修に参加し、鈴木さんはインドへ、長谷部さん、スエナガさんはフィリピンを訪れた。

国際NGOであるオイスカ・インターナショナルを母体につつまは、地球規模の広い視野を持つながら、地域に根ざした視点で行動する「グローバル」な人材を育てることを目指している。同NGOと連携しながら1983年からフィリピンでアブラコース、ネグロスコース2種類の研修をしており、毎年30人ほどの生徒が参加する。

長谷部さん、スエナガさんが参加したネグロスコースでは、NGOオイスカが運営するバゴ研修セン



ネグロスコース、バゴ大学の学生と一緒に植林をする様子一写真は全て同校提供

言葉の意味を体感し、些細な日常の風景も見え方が変わったという。そして、さまざまな国の人と関わったり、自分の見つけた日本の魅力を伝えたりできるようになりたいという目標ができた。

また、長谷部さんは同校の「環境SDGsプロジェクト」のリーダーを務め、静岡県西部、遠州に吹き降ろす強風から中田島砂丘を守る「堆砂垣」を作る活動をしている。

植林で感じた「紡がれていく支援の大切さ」を心に、浜松の美しい景色を守る活動を継続していくそう。

同じくネグロスコースに参加したスエナガさんは、フィリピンで対面した貧困の姿について「毎日安全に学校に行き、ごはんが食べられる。当たり前じゃないと改めて感じ、日々、感謝の気持ちを持とうと思った」と語った。そして、大

行したり、留学をしたりしながら、国際関係学を学びたいと意気込んでいる。

インドでの研修を通じてさまざまな文化、新しい世界に触れた鈴木さんは、「豚肉や牛肉を食べなかったり、ターパンを巻いた人の隣にキリスト教徒の人がいたり、まさに多文化、多様性を認め合う社会の姿に驚いた」と言い、大学では世界の文化について学び、たくさんの方に触れて、その歴史や成り立ち、広がりを知りたいと希望を語った。

研修を通じて世界が大きく広がった3人は、「国際系の分野に進みたい」「英語を使った仕事に就きたい」など明確な目標ができ、夢に向かって日々勉強中。鈴木さんとスエナガさんは、英検2級に合格。現在は、準1級取得のために頑張っているそうだ。これからどのようなグローバルな活躍をするのか、期待が高まる。



現地学生たちに、インドの伝統の踊りを教わる